夕刊 磐城新聞
九月十八日發行
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八〇五五六五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は北西の風晴後曇
明日は北東の風曇後雨

次回時代小說豫告

悲戀 髑髏組(どくろぐみ)

次回連載時代小說

◇梗概◇

上

造り酒屋十字屋の娘幾代の美しい姿を見染めた芝本郎の代官倉持六郎太は、小博奕打ちのつばくら小六を使つて思ひを遂げやうとする代官の内意を受けた小六は、同じ仲間の勘太と計り代官の前をつくらひ、幾代が承知したやうに報告したので、其の間に手違ひを生じる

圖らずも墓地の中で幾代の危難を助け、初めて戀を知つた若い浪人島宗刑部、その浪宅へ幾代が助けられた禮に行つてゐる時、嫉妬の鬼と化した代官が乘込んで來たので、遂に刑部と爭鬪が起り、そして刑部が過つて代官を殺したことから茲に刑部の悲戀地獄の第一歩が踏み出される

一方丁字屋では、傾く家運を挽回する爲め、壹萬兩の支度金を取つて、弓削の鄕士井筒藤左衛門倅藤三郎の嫁にやる事を、當の幾代には何の相談もなく取極めたが、幾代はそれを嫌つて婚禮の夜刑部の隠れ家である甚兵衛の水車小屋へ逃げて行く。其處でまた幾代の後を追つて來た藤左衛門を手にかけた刑部は、幾代を伴れて江戸へ戀の道行きを續ける

道中、東海道藤澤の宿場で、藤三郎に父の仇と斬りかけられたが手もなく藤三郎を返り討ちにする。其の時幾代と別れ／＼になつた刑部は、女賊黒猫お峰と道連れになり、濃艶なお峰と妖しい戀を語るやうになる

江戸へ出た刑部は、芝神明裏の蝙蝠長屋に居を構へやつと脇坂侯へ仕官の身となり明日は初のお目見得と云ふその前日、岡ッ引の茂十と源七の爲めに、女賊黒猫お峰の前身を看破され、仕官どころか、亂鬪裡にお峰まで殺してしまつて、何もかも滅茶々々になり漸く捕手の重圍を脱し、築地で顔馴染みの勘太と小六に出會ひ、その家に居候となる

その頃、勘太と小六は怪盜髑髏組の配下であつたところから、夜釣りに事寄せ船を顚覆させて、首領である上総権十郎に刑部を助けさせ、それを恩に遂に刑部を髑髏組に引入れて了ふ

9月19日
△平民に苗字を許す(明治三)△新門辰五郎歿(同八)△正岡子規歿(同三五)△エ國皇帝イタリーとの開戰準備詔勅を發す(昭和一〇)

9月20日
△喜多川歌麿歿(文化三)△童作家兄グリム歿(一八六三)

贈齒科醫福尾君(其の二)

珠雲 小野務平

天資俊敏究群書
螢雪多年志始符
新爲斉生起仁術
堂々崇閣資鄕閭

悲戀

小山繁來

唯にさびしく
さめ／＼と
氷雨のもる＼
宵なりき

窓に凭れつ
君戀へば
永雨のごとく
冷たけれ

唯にさびしく
さみ／＼と
氷雨のもる＼
胸なりき

綾鼓

梓ゆみね

(下)

○いづちにや聞きゐますむぞ遠ほにゝ人さか／＼るとも音こそは徹れ

○綾ざぬの鼓と知らず衣手にうち込むあはれやと思ひ沁むもの

○月かげに青鈍いろの水ゆれて憤りこそしづむすべもなき

文學の昏迷

久慈生

上

こんな時勢になつて來ると、すべての方面にいろんな昏迷現象が現はれて來るのはやむを得ないかもしれないが、最近文學の陣營に於ても、それが特に目立つて來た。まことに心細い限りである

或る文藝人が、科學性に對するひがみに類する反抗を藝術の名に於て行ふやうな論議をした事なども正しくその一つであるが、更に最近ある大新聞の學藝欄には、社會觀や世界觀が、現實の社會情勢に即したある割り切れない人間感情の前にはモロくもケシ飛んでしまふ事を、半ば禮讃するような感想文が現はれてゐる

筆者は、結局、その相尅の中には人類の歷史が發展して行くと云つてるから、これは割り切つてた頗るヘシテツのない中正な意見のやうではあるが、實は、確固たる世界觀などよりも、その割り切れないヘンテコの感情の方に、より興味をもち、それをなにか科學精神など足許へもよりつけない神秘力として認めやうとするやうな口吻なのである

この場合、最後の相尅云々は、むしろ彼の科學精神の郷愁であつて、本体は、後者の側にあるとしか見えないのである

講談 妖刀流轉(えうとうるてん)

(196) 邑井貞吉讀 佐々木今朝吉畫

因果の妖刀(十一)

角『この上は早速に、その人物を搦め取り、幼年ながら大太郎に、首尾よく仇討本懐を遂げさすよう、及ばずながら手配を致す、お心安く思されよ』

言はれておちかは手を合せ、

さ『忝なう存じまする、何分ともにお願申します』

と天へも上る一同の喜び……。

龜之進は感涙せきあへず

龜『澤田氏何から彼まで、一方ならぬ貴殿の親切、あるに甲斐ない老骨の拙者ゝ貴殿といふ友人の有つたればこそ、あの世へ參つて婿嘉平次に、申譯も出來るといふもの、有がたし忝なし』

と、身體は依然として動かないが、口は漸う利けるようになつたのが實に奇中の奇でありました。角右衛門は心づき

角『そういふ事ならその筆藏と申す奴、この書面の樣子では、未だ橋本屋に登樓中に相違ない、氣取られて逐電されては、この喜びも水の泡、時を移さず手配なし、逃げられぬように致さねば相成らぬ』

云ふとこれを聞いてゐた龜藏が

龜『澤田の旦那御心配なさいますな、そういふ事ならこの私が、譯は有りません、これから一つ飛びに府中の町へかけて行き、幸ひ懇意な橋本屋の主人に吹込ませ一足も外へ出さねえよう、ようく頼んで置きましょう』

角『オウそれはよい所へ心づいた、夜中のところ大儀ながら、心も急げば何分頼むぞ』

龜『エゝもうよろしい處ぢやア御座いません、私はこんな事が大好きだ、それよりか何卒澤田の旦那一日も早くその坊ちやんに、亡父さんの敵の討てるよう、お手續きをして上げてお奥んなさいまし』

野『言ふに及ばぬ心得てゐる、その方も如才はあるまいが、單藏と申す者が何の人物か、おこよに逢つて詳しく尋ね、その名を名乘るか變名か、主持ちとあらば主人の名まで、拔け目なく調べて置くよう予の部下へも傳へてくれよ』

龜『合點で御座ります』

いふが早いか龜藏は裾を端折つて韋駄天走り、府中の町へ取つて返す、忠義の千内は嬉しさに勇み立ち、サアいよ／＼時節到來と、何事も手につかずウロ／＼するばかり、角右衛門はおちか、大太郎、お梅と共に龜之進の枕元へ額を集め、今後の手續きを打合せの相談をする

お話變つて此方はおこよが、龜藏の所へ手紙の使ひに出したもの＼、うまく今夜の中に御主人の處へ、あの書狀が屆いたか何うかと心にかゝる折も折、單藏の中川九郎兵衛、久々ぶりで若梅の今紫に出會し男女とも積る話に夜を更かしたが新參の身とて屋敷を明ける譯にも行かない、名殘は盡きぬがと夜中に歸り支度を始めた、歸られては大變とおこよの心配は又一段

ところが中川九郎兵衛が何うしても歸るといふのを今紫が泣いて歸しません、

引止められて見れば九郎兵衛とて、元より未練の殘るのは當り前、悠圖々々になつて又も部屋へ戻つたから、此方に樣子を窺ひながら、氣をもんでゐたおこよは安堵の胸を撫で下した

そこへかけて來た龜藏が主人に逢つて耳打いたし、おこよにその侍は何んな人物か尋ねたから、おこよも主人の處へ知せの屆いたを知つて大いに喜び、そのお客は今紫が合方に出てゐて樣子は以前からの馴染らしく一加番の大名青木甲斐守樣御家來で、中川九郎兵衛といふのが今の名前、其の顔はこれ／＼で好い男、服裝の擦へは斯樣々々と告げたから、スグに龜藏が澤田の役宅へ引つ返し、手先の衆へ云々と知らせた

吹き込んで即座に聽ける
よき記念
私の肉聲 完成!!
吹込料 一枚兩面 10吋レコード 金三圓也
レコード盤は理研特許輕金屬
送別會、訣別の辭、送別の辭、軍歌、詩吟、家族座談
(本機特價提供)
平市二丁目
日東商會
電話四二八番
◎電話次第一枚にても出張吹込み致します。

書夜診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
平市新川町(電四六四)
醫學博士 北川芳夫
技師 小林良次
(血液檢査毎日)
イツデモ入院デキマス。

森合齒科醫院
森合芳男
植田町 電話七一番

外科、內臟外科
エツキス光線科
産婦人科
設備…入院設備
平市田町
院長 安齋徹
醫學士 黒澤廣
安齋醫院
電話四七五番

ニツポン 日本水産 特約
平製氷
鯛 エビ 白魚 ワカサギ
甘鯛 マナ鰹 帆立貝 ウニ貝燒
ヒノマル東魚
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。
魚問屋
電話二八番

ミシン洋裁生徒募集
◎入學随時◎ミシン無料貸與◎
◎材料不要◎月謝破格低廉◎
◎本科◎高等科◎刺繍科◎
平驛前(市役所通り)
シンガー洋裁女學院
◎入學案内規則書無代進呈◎
◎寄宿、自炊、見習仕込ミモアリ◎

眼鏡
メガネは正確にして廉價
最新式各國製レンズ
豐富に取揃へて御座います
(亂視用眼鏡即時調製)
根本時計店
平市二丁目 電話六〇七

高久病院
平市田町 (電話五三一番)
內科 外科 小兒科 耳鼻咽喉科 花柳病科 レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

靈効散
胃腸藥
或は下痢或は胃腸を害ねたりして三日も四日も便通がなくて頭痛を覺わる御方はキ、メが早い靈効散を御試し下さい
胃腸病。心臟病。腰。痔。
三年五年と患ひ慢性胃腸病が全治した人が澤山あります御來の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
處方調劑所
[illegible]康藥局
電話[illegible]番
定價 一八日分 五十錢 廿日分 壹圓
御子様方には飲み易い小兒靈効散があります。

はりくすり方 生公華
効力本位

私の家の秘傳から作つた良く効く藥はコレです。
病は總て痛苦の局部に炎症性病状を存し血液の循環が惡くなるから治る腫れる痛くなる痛む所と思ひます此の場合直接患部に浸透吸收し病因又は痛苦を殺消し體内に有る毒素を總ず排除又は吸收せしめて『エネルギー』の補償滋養を補ふて細胞の活力旺盛ならしむる必要ありと思ふ此の場合漢藥の王座をしむる生公華を是非お奬め致します本藥は漢方貴藥のみ調劑せる粉末藥にしてこれに必らず玉子白味と共に良く練合ネル布に伸して使用するのです一回へと其の効力があらわれ非常に便用するに付てはりあいの有る名藥です詳細は使用書にあり。
赤地に黒の文地で生公華と書いた旗の立てある御店が特約販賣所です。
藥は能書より効力の二字が本舗特約店印の方は本舗へ類似藥ある故必らず生公華と名指してお求め下さい。

主効
肺炎 肋膜炎 氣管支炎 扁桃腺炎 神經痛 リウマチス 關節炎 中耳炎 骨膜炎 腰冷痛 打身 くじき ルイレキ 濕疹 凍傷 火傷 其他諸腫物に効有り

平市專賣店
山野邊藥局
平市五丁目(電呼六六八)

銘木(床ノ間材)
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
一變せる勉強振りを、一度お試しを乞ふ
營業種目 建築木材一式 銘木、ベニヤ板 秋田産杉四分板 建具材・便利瓦
(マル乃)織田材木商店へ
福島縣平市
電話平四六〇番

産婦人科
外科
藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 內木宗八
藥劑師 大岩俊雄
入院隨意 病室完備
平市新川町十九番地
木村病院
電話一一六四番

晴れたり！秋光滿眼 非常時の健康を培へ
淸澄の山野へ誘ふ明日曜

降る事僅かに一日有半、幸にも陰慘な淫霖に入らず、今曉來一碧に霽れ上つて秋光滿眼、あすの日曜には早くも快涼の金風に吹かれる家族伴れの近郊散策から、更に一歩を進めてリユツクサツク姿颯爽と手近なハイクルートに進出する幾組かもある事であらう。時局柄とあつて鐵道の團体旅行など迄取止めとなつてゐる今日、度外れな行樂は勿論愼まねばならぬが、秋晴の山野に思ふ存分澄み切つた大氣を呼吸するもまた非常時に相應しい一脈剛健の氣を培ふ所以であらう

事變費約一萬圓
新法の施行により 平稅管內から納付

事變費第二次一億一千萬圓の財源として新に實施された第三種特別稅は所得稅の本稅に對する百分の七個半を課せらるるものであるが平稅務署管內に於ける稅額は第一期は既に經過後なので第二期分以下九千七百圓で之を來月、明年一月、三月の三回に納付する事になつて居る、尙は此亦同時に施行された物品特別稅（第一種小賣）は課稅價格二百六十五圓、この稅金五十三圓に過ぎぬが右は主に貴金屬製品に對するもので、時局柄金指輪其他結婚調度品の賣行き不良を物語るものであり、ここにも非常時が反映したと見るべきである

日章旗も高く
けふ滿洲事變記念日 各地に揚る愛國の烽火
秋空の—

けふは滿洲事變記念日一——時ぐづついた空もカラリと晴れ上つて、けふを記念する高台の大日章旗が一碧の秋空にヘンポンとして翻つた、力强い皇軍戰捷のシンボルだ、市內各中、小學校では夫々校長並に組擔任からこれに因んだ講話あり生徒はみんな手に汗をにぎつて非常時の氣構へで聽き入つた、福島聯隊區司令部派遣の入江大佐は赤井第二、平第四、草野各小學校で講演を濟ませ、けふは大浦、飯野の兩校で熱辯をふるひ、各地共非常時克服の意氣すさまじく愛國の烽火をあげた

入江大佐軍事講演
明夕磐崎第一校で

磐崎第一小學校では明十九日午後六時から福島聯隊區司令官入江大佐を招聘し軍事講演會を催すが尙は時局意識を昂揚する爲長倉坑靑年會小田炭礦其他後援の下に『軍歌の夕』を併せ催すと

市役所異動
新任伊藤助役は學務課長兼任

市役所では今十八日、伊藤助役の着任と共に左の如く課長級の異動を行つた

助役兼學務課長　伊藤秀吉

主事並庶務工務兩課長兼任　酒井寅之助

收入役並財務課長兼會計主任　西野源次郎

伊藤助役着任

新任助役伊藤秀吉氏は十八日午前十時二十四分福島驛發列車で出發、午後平市役所に於て酒井前助役と事務引繼をなした

度量衡器檢査日割
來卅日から市內全般

平市の度量衡計量器檢査は既報の如く來る三十日から三十日（上平窪　下平窪　中平窪）十月一日（中鹽　四つ波　幕の內　鯨岡　大室　長橋町　研古町　材木町　紺屋町　鍛冶町　北白銀町　仲間町）二日（北目　胡摩澤　八幡小路　久保町　舊城跡　南白銀町　才槌小路　田町）三日（一　二　三　四　五丁目）四日（新川町　立町　鎌田町　月見町　堤の內　大町　大工町　南町）の日割によつて毎日午前九時から正午迄、平窪元村役場、平市會議事室で行はれるので市役所ではこれに先立ち左記日割で豫備檢査を執行

九月二十二日（長橋　材木　紺屋　鍛冶　北白　仲間　胡摩澤　北目）二十三日（月見　堤の內）二十四日（鎌田　大工　久保　八幡小路　舊城跡　大町）二十六日（立町）二十七日（研古　一　二　三丁目　上平窪　中平窪）二十八日（下平窪　四丁目　五丁目　南町　新川町）二十九日（南白　才槌小路　田町　中鹽　四波　幕の內　鯨岡　大室）

海軍工廠職工合格者

海軍某工廠の見習工採用試驗は此程郡山市で行はれたが平職業紹介所扱ひの合格者は左記五名湯本紹介所では二名である

平市下平窪丹野五郎　勿來中野要　鹿島鵜沼安雄　浪江西山衞男　金房杉本吉敬

第二運動會
來月一日開催

平第二小學校の恒例運動會は來月一日午前八時より開催するが今回は時局柄軍國氣分を加味したる競技種目を取り入れる計劃らしく一層の盛大を豫想されてゐる

晚秋繭一割增豫想
養蠶家の待望裡に 四倉は來廿一日開場

そろ〳〵晚秋繭の出廻期に入つたので秋繭の取引後しばらく閉場した四倉市場は愈よ二十一日から蓋明けし來月十五日迄取引を續けるが出荷數量は昨年より一割乃至二割の增加を豫想されてゐる

蠶業取締平支所調査による晚秋繭の收繭豫想數量は約五萬貫で昨年より一萬貫の增加、早い處ではボツ〳〵收繭を行つてゐるが大体二十日頃から本格的に出廻るらしく最盛期は今月二十五、六日頃である

尙植田市場も四倉より一週日遲れて取引を開始するものと見られる

○

郡下の晚秋繭出廻季に入り蠶業取締平支所では目下所員總動員の下に連日收繭の指導督勵に大童である、養蠶家連も初秋、並に秋繭が案外安値であつたのでこの晚秋繭により從來の分を補はんものと意氣込み何れも二十一日から開場の四倉市場に期待をかけてゐる、然し一時に轉げ込む現ナマを見てはまんざらでもないだらうし今年最後の『繭景氣』の沸く日も愈よ近づいて來たわけだ

盜品？

市內才槌小路本田昌幸さんは十七日夕五時半頃同町內の側溝で八貫匁もある銅製機械部分品を拾得平署に屆け出た、或は盜品らしいので同署で內偵中

搏明かね預金部
大待ちかねの指令無く 遣り繰り町村氣を揉む

預金部資金局仙台支局平出張所を經て郡下各町村から貸付を願ひ出た合計十八件この金額六十八萬圓に對する詮議は最初の豫定より遙かに遲れ今に何等の指令に接せぬが、時局柄不急の事業計劃に對して希望通りの融通無きは當然とするも中には豫め前途を見透して既に事業に着手し中道にして貸付の指令を鶴首しつつ頗工を躊躇して居る向もあり此の方面から少からず前途の成行きを懸念されてゐる

銃後運動の資金に 「月見だんごを賣る」
江名國防婦人會の活動

會員六百名を擁する江名國防婦人會では昨報の如く明十五夜を前に會員總出動で皇軍慰問費造成の萩、スヽキ刈りを行つたが更に明日は『月見だんご』をこしらへこれを會員の手によつて全町に賣り步き資金を造成する

この外同會では既に町內から屑物、古新聞を集めその買上げ金を銃後運動資金に當てたなどその活動は目覺しい

。。慰問袋　市內長橋町性源寺宍戶勝子さんは慰問袋一個を市役所へ

偉いぞ軍人の父

大野村柳生高木松尾君は家族九人を殘して出征したが父要造（六六）さんは伜の入營後新聞擴張を行ひ謝禮のうちから金十圓を國防費として獻金

拳銃と日本刀二振
『幾分でも國の爲に』 川前の區長さんから

川前村大字上桶賣字下澤尻行政區長根本菊太郎（五四）氏は十六日警察署を訪れ『自分は早や第一線に立てないから銃後に於て幾分でも國家に盡したい』と新式拳銃と日本刀二振を差出し出征軍人に送つて下さいと願ひ出たので直に警察部へ發送した

巴狀大接戰
あす常磐毎日の 中等敎員野球大會

常磐毎日新聞社主催第四回中等學校敎員野球大會は明十九日午前八時から平商グラウンドに於て開催するが再勝を期す磐女を向ふに廻はして之の榮冠を奪取せんとする磐中、平商の鼻息何れ劣らず凄まじいものがあり三强剛入り亂れての猛烈な巴狀接戰が行はれるものと觀られてゐる

四倉の大工心中未遂

四倉町仲町一二八五緖方才三郎五男新八郎（二七）は信州方面に出稼ぎ中長野縣飯田市上飛田町料理業若狹屋方酌婦小池せつ（二三）と深い仲になり十七日夜連れ立つて同縣西筑摩郡讀書村三留野大楯旅館に投宿アダリンを多量に嚥下心中をはかつたが男は意識を回復、女は昏睡狀態を續けてゐる。

小林讓三郎氏

植田水力電氣株式會社員小林讓三郎氏は豫て病氣の處藥石効無く昨十七日午前六時竟に長逝、葬儀は明十九日植田町の自宅に於て神式により告別式を執行する

氏は泉藩の名望家小林藏次氏の三男、磐中第十五回卒業生で慶大出身、星製藥より植電に轉じ、縱橫の才幹を揮つた人。悼哉

。。。伜よ歸れ

相馬郡中村町原釜惣七の伜赤城信吾（二七）は去月十三日湯本町に出稼に來たまゝ音信を絶つた、同人は軍籍にある身だから十八日惣七から平署に搜索願

。。。菓子製造視察

喜多方菓子商業組合理事長宇內幾右工門氏は製品の宣傳を兼ね十八日平地方視察に來平

献金はや一萬七千圓也
慰問品、守護札は合計六千個
おゝ力强い赤誠の結晶

半島の同胞までも献金して烈々燃ゐさかる銃後の熱誠は至るところに力强い話題を生んでゐるが、平署で調べた事變突發以來最近迄の管內に於ける『赤誠の結晶』は

國防、皇軍慰問、其他の獻金額は〆て一萬六千圓（新聞社、市町村役場扱ひの分も含む）また慰問袋は二千五百三十個、この外守護札、千人針其他之に類似する品々を合すれば約六千個の多數に上り、同署三林特高主任も『力强い赤誠のあらはれだ』と統計表を前に感激してゐる

生花會の費用を軍事後援會へ
須藤春峰社中から寄託

生花池の坊須藤春峰社中では『今回の事變に對する皇軍の決死的活動を憶ふ時、銃後心の務を盡すべき吾等女性も奮起せずには居られません』との健氣な趣旨の下に、八幡祭典に當り花會開催の豫定を變更し、之れに充てる筈であつた費用中から左記の通り合計三十二圓を醵出し今十八日本社を通じ平市軍事後援會に寄託し市出身軍人遺家族の賑恤救護に資する事になつた

醵出者（金一圓宛）須藤まつの　水上雅子　櫻井文子　目澤みどり　猪狩ひで　漆原はる（金五十錢宛）須藤佐久代　菅野方子　若松良子　鈴木生花店　五十嵐いしね　遠藤とみ　田口倭文子　青山國惠　岩並みよ　根本やす子　馬目末代　增子好　金成品子　吉田幸子　新妻はる子　吉田やす　吉田みのる　水谷すい　河野あい子　鈴木かね子　遠藤文子　鈴木浦子　大谷芙美代　鈴木竹子　永山きん　蓮沼寬子　五十畑よし子　渡邊さつ　山口美佐子　松田みつ子　今井民枝　鈴木いせ子　川又かね子　川又たけ子　石澤さわ子　木幡はつね　宇佐美美世子　菅野勇　八田與市　星よね子　箱崎通子　高萩さた　森谷美代　御代あや子　石崎けい　大內重　川澄せい子　大堀富子（金七十錢）根本つね

九百五十圓
平署扱ひ累計

平署扱ひの献金左の如く十八日迄の累計九百五十一圓五十六錢

△永井小學校生徒一同で三圓六十三錢を國防費へ

△市內二丁目吉川義彥氏は軍人家族慰問費として三圓

△市內露天商代表鈴木庄次、藤太一郎、牧野長吉の三氏は赤井藥師、飯野八幡神社の祭典に際し同業者から集めた十四圓十七錢を國防費へ

舊八月十五日　己酉　佛滅　建　房宿　新九月十九日　日曜

▲一白　がじやうに肉薄して實戰を試むべく勝利疑なし▲二黑　前途の光明を期待して益々練磨の功を積め▲三碧　大功を樹てんとして他力に依頼し失望せん▲四綠　ぶゐつ堪えず大木の倒るゝが如しひかへめが吉▲五黃　輕忽なれば衰運は益々不良に傾かんとす凶▲六白　萬事けんたいの念充滿してしゆん巡事を遂げ難き日▲七赤　信望とみに落ちて同情は失はれ首尾全からず▲八白　業績窓の如くのびず油斷すれば更に惡化す▲九紫　氣運かなれど妙に馳せてつまづくことあるべし

鑑判定應需　東京市本郷區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠舘

十九日（小名濱測候所發表）　滿潮　前二、五〇　後三、五〇　干潮　前九、四〇　後九、五〇

二十日　滿潮　前三、四〇　後四、一〇　干潮　前一〇、一〇　後一〇、二〇

舊八月十六日　庚戌　大安　除　心宿　新九月二十日　月曜

▲一白　思惑外れた生じ易き日企業開店皆商見合せ▲二黑　腰をすえて實直に働けば漸次に吉兆を呈す▲三碧　金話りを生じて思ふ存分の働き出來ざる日▲四綠　辯口理屈は逆者なれども實功の伴はざる日▲五黃　外分や體裁を思はず質素に身を持すれば吉▲六白　物事にちうちよせず心を勵まし奮起すれば大吉▲七赤　一時のわづらひはあれど努力の功は忽ち現はる▲八白　思案に過ぐれば何事も出來ず奮起肝要の日▲九紫　萬事窓の如く行はるゝ幸運日開店皆商亦吉

廣告

木村病院　平市新川町　電話一六七番

大和田醫院　平市南町　電話一七〇番

高柳醫院　平市驛前通り　電三三六番

根本産婦人科　平市南町　電三一四

新車のお知らせ　斷然!!!　乘心地良い!!!

三七年型フォード　入車いたしました。是非！御試乘の程を！

市內四丁目　スヾキタクシー　電二一七番

公債、株式、賣買　一般証券業務　平市三町目　電話一七七番

▲友部株式店

營業所　水戶市泉町二丁目　電話二四〇・六〇一番　助川町天王町　電話六九番　大子町榮町　電話二九番

持株の御相談に應じます。

產科　婦人科　花柳病科　午前宅診　午後往診　入院應需

井坂醫院　平市田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

ゼネラルカーボン紙　復寫鮮明　筆觸快適

㊄魁文堂　電話313番